



会 津 大 学

後援会だより

第 56 号

発 行: 会津大学後援会(事務局学生課)

発行日: 2026 年 8 月 1 日

住 所: 〒965-8580 福島県会津若松市一箕町鶴賀

電 話: 0242-37-2515

U R L: <https://u-aizu.ac.jp/>

学長あいさつ

「人間ならではの考え方、
「アブダクション推論」について」

会津大学長 東原 恒夫

今回は認知科学者である今井むつみ氏の著書、『アブダクション英語学習法 認知科学者がAI時代に伝えたい独学の技法』（日経BP）から、第1部「考え方」編（理論編）で述べられているAI時代に不可欠な考え方である「アブダクション推論」について述べたいと思います。第2部「実践編」の英語学習法については、また別の機会に紹介させていただきます。

論理学で推論と言えは、「演繹推論」と「帰納推論」が有名です。前者は規則と事例から結果を導きます。数学の証明はこちらです。これに対して後者では、事例を積み上げて規則を導き出します。実験・観察を積み上げて規則を導き出す科学研究のアプローチはこちらが主流です。

さて、3つ目の推論が「アブダクション推論」で、19世紀生まれの米国の哲学者、チャールズ・サンダース・パースが提唱した考え方です。「規則」と「結果」から「結果の由来に対する仮説」を導き出すという推論です。したがって、「仮説形成推論」とも呼ばれます。

アブダクション(abduction)は、あまり馴染みのないことばなので、ここで意味について少し述べたいと思います。英語のabductionは元々、1番目に誘拐・拉致、2番目には体の動きに関する外転の意味があります。外転とは体の中心線から手足を外側へ遠ざける動作を示します。トレーニングジムには、ヒップ・アブダクション・マシンがありますが、座った状態で太ももを広げる外転動作のときに負荷をかけ、お尻の筋肉（中殿筋、大殿筋）を鍛える目的に使います。「アブダクション推論」では、通常の枠組みから「一歩外へ踏み出したところへ思考を導くことで仮説を立てる」という3番目の意味として使われています。

今井氏の著書から、「アブダクション推論」のわかりやすい例を引用してみます。子供がことばを覚える過程で日常的に起こりそうな「イチゴのしょうゆ」という仮説形成の例です。

1. 子供は「しょうゆ」を豆腐にかけるとおいしくなることを知っています。【規則】

2. さらに、イチゴに「あの液体」をかけるとおいしくなることも知っていますが、「あの液体」の名称はまだ知りません。【結果】

3. そこで、子供なりに豆腐と「しょうゆ」との類推から、「あの液体」は「イチゴのしょうゆ」であるという大胆な仮説を立てます。【結果の由来に対する仮説】

この時点ではまだ正しい名称を得られてはいませんが、「新しい仮説」を生み出して一歩前進しています。次の段階で、お母さんとの会話から、「仮説の検証」が行われて、正しいことばである「コンデンスミルク」が子供に強く定着していきます。さらに、「しょうゆではなくて、ミルクの仲間」であることも学びます。このように、子供は仮説の形成と検証を繰り返しながら、「新しい知識」を身につけ母語を形成していきます。

本稿の結びに、AI時代に生きる我々の指針となる今井氏のことばを、著書の「はじめに」より引用します。

『アブダクション推論は、学術分野におけるノーベル賞級の発見や、ビジネス分野における革新的なイノベーションなどの背後において、共通して働く思考プロセスとしても注目を集めています。なぜなら、「間違っているかもしれない仮説」を立てるアブダクション推論こそが、「新しい知の創造」を可能にするからです。（中略）AIとともに生きる時代に、人間の知性に必要なものは何かと問われたら、私は迷わず「アブダクション推論のスキル」とであると答えます。生成AIは基本的にアブダクション推論をしません。ビッグデータからパターンを抽出して予測をする「帰納推論」が生成AIの行う推論です。予測はしますが、仮説はつくりません。だから自ら新しい知を創造することはないのです。それに対して、人間はアブダクションによって、新たな知識を創造していくことができます。』



会長あいさつ

会津大学後援会長 五十嵐 敏之

会津大学後援会会員の皆様におかれましては、日頃より後援会の運営にご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。また、新たにご入学されました新入生の皆さん並びに保護者の皆様ご入学誠におめでとうございます。心よりお祝いを申し上げます。

本学は最先端のコンピュータサイエンス、ソフトウェア工学、人工知能、ロボティクスなどの分野に強みを持ち、深い専門知識と技術を習学できると共に地域社会と連携し、先端的な IT 教育・研究を推進し、専門的かつ実践的な学びができる場として、希望する学生にとって非常に魅力的な学部であり、多くの優秀な人材を輩出しております。

今では日常生活のあらゆる場面に浸透している

ICT も、本学でしっかり学べば国際色豊かな先生方と最先端の設備のもと非常に高度な知識やスキル、さらには高い英語力を身に着けることができ皆さんの可能性を大きく広げることになるものと確信しております。

一方で大学生活はこれまで以上に自主性が大切になります。

これからの生活での選択や行動が、皆さんの将来を大きく変えることができるのです。明確な目標を持ち失敗を恐れず多くのことに果敢に挑戦していただき、充実した大学生活を過ごされますよう心から願っております。

最後になりますが、私たち後援会も大学の発展を支えるため、会員の皆様と一体となって大学のさらなる飛躍と学生の充実した学びの場づくりに取り組んでまいりますので、引き続きご支援・ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

学位記授与式 (2025 年度)

2026 年 3 月 19 日(木)、学位記授与式が執り行われました。コンピュータ理工学部卒業生 219 名、大学院博士前期課程修了生 60 名、大学院博士後期課程修了生 3 名、計 282 名を代表して、学部卒業生の笛木アリナさんが答辞を述べました。

また、在学中に優秀な成績や研究の成果を修めた学生の表彰が行われました。

学長賞	水谷 祐貴(学部)
	松村 怜明(博士前期課程)
優秀賞	笛木 アリナ(学部)
	橋本 茜(学部)
	王 丙豪(博士前期課程)
電子情報通信学会東北支部表彰	五十嵐 拓(学部)
情報処理学会東北支部学生奨励賞	小林 幸生(学部)
電気学会東北支部優秀学生賞	深谷 亮太(学部)
計測自動制御学会優秀学生表彰	押谷 俊貴(学部)
公益財団法人会津地域教育・学術振興財団表彰	横山 楓人(学部)



学位記の授与後、学生食堂において後援会主催の卒業記念パーティーが行われました。学生生活最後となるこのパーティーは、和やかな雰囲気の中で行われ、参加者たちが歓談や記念撮影を楽しんでいました。

入学式について（2026 年度）

2026 年 4 月 2 日（木）、入学式が執り行われました。学部 247 名、博士前期課程 85 名、博士後期課程 9 名、計 341 名が入学し、新入生を代表して、平塚優希さんと津久井羅偉さんが宣誓を行いました。

入学式の後は、学部入学生全員での記念撮影を行い、各サークルの勧誘活動も行われました。



在学生表彰（成績優秀者）

2025 年度の各学年の成績優秀者を表彰しました。会津大学では、GPA(※)による成績評価を導入し、学部の各学年の上位 2～3 名を表彰しています。

（※Grade Point Average：大学における成績評価方法の国際標準であり、就職や大学院進学、海外留学の際に活用されています。）



学年 (2025 年度)	成 績 優 秀 者		
学部 1 年	境田 邦夫	高島 汰希	木村 鼓太郎
学部 2 年	磯海 瑛斗	大山 輝士	高橋 諒
学部 3 年	中里 紅斗	三原 葵子	御園 健太

学生の活動紹介 ～学園祭実行委員会～

みなさんこんにちは！会津大学学園祭実行委員会です！
私たちは会津大学学園祭「蒼翔祭」の企画・運営におけ、日々活動しております。

昨年度は雨でしたが、それでも2,500人の方に来場いただきました。

今年度も昨年に引き続き、各サークルや企業様による出展、熱気あふれるステージ発表、そして豪華景品が当たる大抽選会ももちろん開催します！

さらに子ども広場では、昨年大好評だった「お絵描きバトラー」や「わたあめ」に加え、会津大学短期大学部の皆さんとの連携企画や、**これまでにないアツと驚く新規企画**も絶賛準備中です！学生だけでなく、地域の皆様や小さなお子様まで、どなたでも一日中楽しめる内容になっています。

今年度は例年より早くから活動を開始し、学園祭実行委員全員が全力で準備に取り組んでいます。今年は秋晴れの快晴になることを祈りつつ……皆さまのご来場を心よりお待ちしております！



◎ 今年度の蒼翔祭の日程

今年は10月10日(土)・10月11日(日)の2日間に開催します。

海外留学事業について

会津大学では、国際競争力の向上と国際的に活躍できる人材の育成ため、学生に国際化プログラム等を提供しています。

昨年度(2026 年3月)の短期留学プログラムに参加した 3 名の学生の体験談をご紹介します。

RHIT ローズハルマン工科大学(米国)

4年 下元 愛美さん



私の短期留学プログラムの中で最も印象に残っている経験は、現地の小学校を訪問したことです。この訪問では、けん玉、書道、折り紙といった活動を通して、日本の文化を子どもたちに紹介しました。

小学校訪問に向けて、まず私たちは6人のチューターとともに全体ミーティングを行い、どのような活動を行うかを決定しました。その結果、活動ごとに3つのグループに分かれ、私は折り紙グループに参加しました。各グループには2人のチューターがつきました。その後、それぞれのグループで日程を調整し、練習のためのミーティングを行いました。また、英語の授業では、

全グループがそれぞれの活動を発表し合い、互いにフィードバックを行いました。

その中で私にとって最も難しかったのは、折り紙の折り方を英語で説明することでした。私たちのグループでは、手裏剣の作り方を教えることに決めました。これは、自分の英語の語彙が限られていたことに加え、折り紙という文化自体がアメリカでは一般的ではないこともあり、より難しく感じました。

準備の段階では、チューターに手裏剣の折り方を教えながら、折り方を説明するための英語表現を学びました。特に印象に残っているのは、紙を半分に折る際の説明方法です。長い辺を折る場合は「ホットドッグスタイル」、短い辺を折る場合は「ハンバーガースタイル」と表現する方法を教えてもらいました。この表現はとても分かりやすく、特に子どもたちにとって理解しやすいと感じました。

実際に小学校を訪問した際、子どもたちの積極的な反応に驚きました。けん玉の活動では、「やりたい人」と聞くと多くの子どもたちが手を挙げていました。また、書道の活動では、自分の名前を日本語でどのように書くのかを質問してくる子どももあり、日本文化に強い興味を持っている様子が見られました。

折り紙の活動では、グループの1人がプロジェクターを使って前で折り方を説明し、私を含む残り2人は教室内を回りながら子どもたちのサポートを行いました。英語でうまく説明できない場面もありましたが、簡単な言葉やジェスチャーを使うことで、子どもたちはしっかり理解してくれました。

手裏剣が完成した時、子どもたちはとても嬉しそうにしており、自分の作品を見せに来てくれる子もいました。また、完成した時だけでなく、折る工程の途中でも掲げて見せてくれる子どもが多く、その姿がとても印象的でした。

この経験を通して、たとえ英語が完璧でなくても、簡単な言葉やジェスチャー、工夫を用いることで十分にコミュニケーションが取れることを学びました。また、相手の立場に立って物事を伝えることの重要性も実感しました。さらに、文化の違いはコミュニケーションを難しくする一方で、その経験をより意味のある、興味深いものにしてけると感じました。

この経験は私にとって非常に価値のあるものであり、英語でコミュニケーションをとることへの自信にもつながりました。今後も英語力を向上させ、より分かりやすく伝えられるようになりたいと考えています。

Waikato ワイカト大学(ニュージーランド)

2年 阿部 真琴さん

2026年3月、私は会津大学の短期留学プログラムに参加しました。選べるプログラムは3つあり、私はニュージーランドに行くことに決めました。理由は英語のコミュニケーションスキルを本当に向上させたかったからです。ニュージーランドのプログラムはホームステイだったため、3週間毎日、英語を話す環境で生活することができました。

ホストファミリーは信じられないほど親切で、私を歓迎してくれました。彼らはいつも私のつたない英語をゆっくりと、忍耐強く聞いてくれました。時々、基礎的な英語の文法や便利な単語を教えてくれることもありました。3週間同じ家で一緒に住むことで、ニュージーランドの文化や日常生活について体系的に多くを学ぶことができました。毎晩一緒に夕食を



食べたのは、スピーキングの練習をするのにとてもいい時間でした。

平日はワイカト大学に通いました。1日約5時間、英語の授業を受けました。その授業は、日本の普段の授業よりも、会話やスピーキングに重点を置いていました。実践的な英語を学ぶことができ、とても役に立ちました。また、クラスの学生たちはとても積極的に参加していました。みんなが発言するので、私は飽きることなく、そこで学ぶことを心から楽しみました。

休日は学校の外でとても楽しく過ごしました。ホストファミリーが自然の美しい観光地に親切に連れて行ってくれました。ニュージーランドでできた新しい友達とオークランドへ観光にも行きました。私たちは一緒にたくさんの素晴らしいものを見ました。

さらに、ニュージーランドの人々はみんなとてもフレンドリーでした。私が積極的に話しかけようすると、いつも喜んで返事をしてくれました。バスで隣に座った人やお店で働いている人も、気軽に話しかけてくれました。これらすべての経験を通して、自分の英語のスキルが大きく上達したと本当に感じました。これからも英語の勉強を頑張っていきたいです。

USM マレーシア科学大学(マレーシア)

3年 三留 大地さん



今回のマレーシア留学は、日本では味わえない異文化を肌で学ぶことができる、貴重な機会となりました。

まず驚いたのは、マレーシアの人々の言語能力の高さです。マレーシアにはマレー系、中国系、インド系など多様なルーツを持つ人々が暮らしており、私たちをサポートしてくれたUSMのバディや教員の方々も様々でした。彼らが会話の中で、マレー語から英語へと急に切り替えて複数の言語を使いこなす様子はとても印象的でした。英語のアクセントも癖がなく、日本人の私にも聞き取りやすい発音で話す人が多かったです。街中でもそのような

場面によく遭遇しました。ショッピングモールで最初は中国語やマレー語で話しかけられても、こちらが困っていると即座に英語に切り替えて対応してくれました。お店や商品の品ぞろえも多様性に富んでおり、多文化の融合を感じました。

また、宗教が生活に密着している点も、日本との大きな違いとして実感しました。マレーシアの人口の約6割を占めるイスラム教の文化には特に大きな衝撃を受けました。日本では日常生活で宗教を意識する機会は多くありませんが、現地では1日5回、大音量で流れる礼拝の呼びかけが人々の生活リズムを作っていました。バディの話によると、多忙な人でもこの放送で時間を把握しているそうです。マレーシアに来たばかりの頃は、私も朝6時の放送でよく目を覚ましました。

さらに、今回の滞在はラマダンの期間と重なっていたため、その文化に直接触れることができました。日没後の食事を調達するための活気あるバザーが各地で開催されており、私も何度か足を運んで現地の食文化を堪能しました。断食明けにはバディと一緒に食事を楽しみました。街中では花火が上がり、ショッピングモールではラマダンソングが流れており、現地の特別な雰囲気を感じることができました。



マレーシアでの体験はどれも新鮮で刺激的なものでした。3週間という短い期間でしたが、私にとって多様な価値観に触れ、異国の空気を直に感じる濃密な時間になりました。

2026 年度も同様プログラムを展開しております。今後も、学生が参加できる国際交流活動を支援し、国際交流・海外留学の推進に努めて参ります。

※本学の国際交流については、下記からご覧いただけます。

■国際戦略室 ウェブサイト <https://u-aizu.ac.jp/osip/>

■プログラムに参加した学生のレポート <https://u-aizu.ac.jp/osip/dispatch/report/>

■グローバルラウンジの活動について <https://u-aizu.ac.jp/osip/abroad/gl.html>

■海外の協定大学との連携 <https://u-aizu.ac.jp/osip/school/index.html>

修学支援室より

修学支援室は、講義や演習だけでは内容を十分に理解できなかった際に先輩に相談・質問できる場です。支援室には本学卒業生が務める修学支援員及び大学院生・学部生によるアシスタント(TA・SA)が常駐し、数学からコンピュータ系科目まで幅広く対応しており、一年生をはじめ、多くの在学生の皆さんも利用しています。パーテーションで区切られた自習室も備えていて、様々な学生にあった形で利用できるようになっています。



◆ オンライン化への取り組み

学内外を問わず、どのような状況でも学業支援を行うために様々な検討を行いました。実際に行った取り組みとして、メールでの質問対応や授業で難しく感じた学生の声が多かった内容について web 上での解説等を開始しました。結果、支援室内外で学生さんのサポートを行うことに成功しています。今後も利用者の利便性向上のためこれらの取り組みについて継続する予定です。

◆ 履修相談

年々変わる授業内容、進級に関わる履修規程などにより学生にとって履修計画はより複雑で難しいものになっています。これにより自分の履修状況等を不安に感じる学生も少なくありません。そのような相談に対し、情報の提供及び今後の履修計画の提案なども行っています。また質問対応も同様にメールでの相談も受け付けています。

◆ 試験期間中の対応・臨時開室

期末試験直前の勉強の追い込みをしたい学部生向けに、日曜日に修学支援室を臨時で開室しテスト勉強のサポートを行いました。それに加え、臨時開室中もメールでの質問対応も行い、様々な学生さんに対応いたしました。

◆ 学内システム開発の支援

学内向けシステム開発のサポートも行っています。代表的なものでは学生の健康診断や就職相談の個別面談に用いられる予約システムの開発を担当させていただきました。

学生スタッフ紹介

博士前期課程2年 高野流空さん



修学支援室 TA 歴 4 年目です。来学者の疑問や不安に寄り添いながら、課題や試験勉強のサポートを行っています。

相手に合わせた説明を考えることの難しさもありますが、その分、自分の知識を整理し直すいい機会にもなっており、充実した活動だと感じています。

修学支援室 (研究棟 2 階 246E)

● 電話: 0242-37-2758 ● Email: ofls@u-aizu.ac.jp
<https://u-aizu.ac.jp/campus/support/learningsupport/>

保健室・学生相談室より

■ 保健室

阿部 さえ子 看護師

研究棟1階 (148)
0242-37-2517
nurse@u-aizu.ac.jp



疲労とは
簡潔に言うと「活動に伴う限界の信号」です。運動性疲労であれ精神作業性疲労であれ、筋肉・神経細胞の過活動による生体酸化が修復できないと疲労が続きます。疲労を感じたらその疲労に見合った休養方法を選択しましょう。

■ 学生相談室

橘内 哲治 カウンセラー

研究棟2階 (252)
0242-37-2610
counseling@u-aizu.ac.jp



人は思っているよりも強く、
思っているよりはずっと弱い。
人とは、矛盾だらけの心の有り様なの
かも知れません。
心での捉え方の習慣が変われば人格
が変わり、人格が変われば運命が変わ
ります。一緒に話してみませんか。

就職支援室より

現在社会全体で急激な DX 化が進んでおり、多くの業界でデジタル化に必要な人材を求めています。

会津大学はまさに IT 人材の育成を目指している大学であり、学生自身の高い専門性と積極的な活動の成果が各業界から評価を受け、高い就職率につながっています。

就職支援室では、一人ひとりに進路個別面談を行い、進路を考える上でのサポートや直接話すことで関係性を築くことなどに注力しています。

就職活動では、答えを教えるのではなく、「考えるプロセス」を通じて、自分の価値を見出せるよう支援を行っています

◆ 対応できること（オンライン相談可）

- ◆ 進路・就職相談・インターンシップ など
- ◆ 面接対策、面接練習
- ◆ エントリーシート・履歴書添削・アドバイス
- ◆ その他 ひとりで抱え込まず、お気軽にご相談ください

就職支援室（学生ホール 2 階）

● 電話：0242-37-2790

● Email: career@u-aizu.ac.jp



2025 年度 就職・進路状況について

後援会では、各種資格試験（情報処理技術者試験、TOEIC）の奨励金を支給するとともに、就職活動交通費・宿泊費についての補助を行い、学生の就職活動を支援しています。

◆ 就職状況

（2026 年 5 月末日現在）

	進路希望	決定者数
民間企業	149	147
県内	32	32
県外	117	115
教員	0	0
公務員・団体等	4	3
起業・家業	1	1
合計	154	151
就職率	98.1%	

主な就職先（一部抜粋）

MIXI	会津オリンパス
NTTデータ東北	関電工
NTT 東日本	信越半導体 白河工場
アクセンチュア	日本アイ・ビー・エムデジタルサービス
アルプスアルパイン	日本デジタル研究所
インターネットイニシアティブ	日本電気航空宇宙システム
キオクシア	(NEC航空宇宙システム)
クボタ	日立ソリューションズ東日本
グリーホールディングス	福島コンピューターシステム
コナミアークードゲームス	福島県中央計算センター
シンク	三菱電機ディフェンス&スペーステクノロジーズ
スズキ	三菱UFJインフォメーションテクノロジー
ソシオネクスト	横河電機
ソフトクリエイトホールディングス	楽天グループ(エンジニア職)
ディー・エヌ・エー	会津若松市役所
ナビタイムジャパン	関東信越国税局
マーベラス	埼玉県警察本部
ラック	

◆ 進学状況

（2026 年 5 月末日現在）

	進路希望	決定者数
本学大学院	64	64
他の大学院	4	3
海外の大学院	1	1
合計	69	68

2026 年度 後援会活動について

後援会では、健全で快適な学生生活を支援するため、福利厚生事業、学生会・学園祭実行委員会への助成、就職活動支援など様々な事業を実施しています。

2025 年度決算及び 2026 年度事業計画・予算につきましては、2026 年度後援会総会（※書面協議）において下記のとおり承認されました。

2025 年度決算

1 収入科目	決算額(単位:円)
会費	13,160,590
雑収入	24,194
TOEIC テスト受験促進事業	795,020
戻入	0
繰越金	11,295,144
計(a)	25,274,948

2 支出科目	決算額(単位:円)
会議費	0
事業費	18,039,329
学生課外活動助成費	6,001,100
厚生及び進路対策費	8,654,753
研修等助成事業費	59,046
スキルアップ奨励事業費	1,623,570
TOEIC テスト受験促進事業	1,700,860
記念事業積立金	500,000
予備費	0
計(b)	18,539,329
当期収支差額 (a)－(b)	6,735,619
次期繰り越し	6,735,619

2026 年度事業計画

時期	事業概要
4 月	総会(書面協議)及び役員会(中止)
4 月～翌 3 月	クラス活動助成事業
4 月～翌 3 月	新入生クラスミーティング運営補助
4 月～翌 3 月	TOEIC テスト支援・受験促進事業
4 月～翌 3 月	就職活動交通費・宿泊費補助事業
4 月～翌 3 月	ボランティア活動費補助事業
4 月～翌 3 月	研修等助成事業
4 月～翌 3 月	スキルアップ奨励金事業
4 月～7 月 10 月～翌 1 月	朝食定期券補助
8 月	後援会だより(第 56 号)発行
10 月	学生会・学園祭実行委員会への助成
10 月	役員会
2026 年	
2027 年	
3 月	後援会だより(第 57 号)発行
3 月 19 日	役員会／卒業記念パーティー

2026 年度予算

I 2026 年度会津大学後援会予算

1 収入科目	予算額(単位:千円)
会費	13,500
雑収入	10
TOEIC テスト受験促進事業	500
繰越金	11,300
計	25,310

2 支出科目	予算額(単位:千円)
会議費	0
事業費	18,361
学生課外活動助成費	6,701
厚生及び進路対策費	8,000
研修等助成事業費	100
スキルアップ奨励事業費	2,100
TOEIC テスト受験促進事業	1,460
記念事業積立金	500
予備費	6,449
計	25,310

II 2026 年度記念事業積立金予算

1 収入科目	予算額(単位:千円)
積立金	500
雑収入	2
繰越金	1,071
計	1,573

2 支出科目	予算額(単位:千円)
記念事業費	0
予備費	0
計	0

2026 年度後援会役員

役職	役員	
名誉会長	束原 恒夫	
会長	五十嵐 敏之	
副会長	白坂 光剛	大竹 智亜理
監事	渡部 高夫	濱尾 忠弘
委員	上野 健一	猪狩 秀仁
	本多 悟	佐藤 志津
	齋藤 祐一	原 隆史
常任委員	鶴見 宏幸	